

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

令和4年度第1回岩手県公共事業評価専門委員会

2 開催した日時

令和4年6月16日（木） 9：30～12：30

3 開催場所

エスポワールいわて3階特別ホール（盛岡市中央通一丁目1-38）

4 出席委員

小笠原敏記専門委員長、武藤由子副専門委員長、石川奈緒委員、伊藤幸男委員、清水真弘委員、谷本真佑委員（6名中6名出席）

5 議題等

（1）議事

ア 令和4年度専門委員会の開催スケジュール等について

政策企画課から、令和4年度公共事業評価専門委員会の審議内容及び開催スケジュールを説明。

イ 公共事業の再評価について

令和4年度再評価対象事業（総事業費50億円未満）として諮問があった9地区（農林水産部7地区、県土整備部2地区）について、事業担当課から評価内容の説明があり、これについて審議が行われた。

審議の結果、詳細審議地区の選定基準（①随時再評価に該当するもの、②未着工に該当するもの、③再評価の中項目評価に「c」があるもの、④前回再評価の答申に付帯意見が付されたもの、⑤上記以外で前年度末の進捗率が90%未満かつ同一事業のうち総事業費が大きいもの）に該当するものを参考に、委員会が特に必要と認めたものを含め、5地区（農林水産部4地区、県土整備部1地区）を選定して詳細審議を行うこととした。

■ 専門委員からの主な質疑、意見は次のとおり

【中山間総合整備事業（生産基盤）（市野々地区）】

（質疑）

区画整理施工面積が増加した理由は。また、施工面積の増加により事業費はどの程度増加したか。

（回答）

整備を進めていく途中で事業への参加を希望する方がいたため。なお、施工面積の増加により事業費は約4億1,300万円の増加となった。

（質疑）

工事遅延の理由として切土盛土や表土運搬に時間を要したことと、岩盤出土や湧水処理の対策工に時間を要したことが挙げられているが、どちらの影響が大きいのか。

（回答）

事業地区が沢沿いの傾斜地であるため、切土盛土や表土運搬による工事遅延の影響が大きい。

（質疑）

費用便益分析の作物生産便益及び営農経費削減便益が増加した要因及びその他便益が0円から2億4,100万円となった理由は。

（回答）

区画整理面積の増加に比例して、作物生産便益及び営農経費削減便益が増加しているもの。その他便益は算定マニュアルの改定に伴い、国産農作物安定供給効果という便益を算定できることとな

ったため、新たに計上しているもの。

(意見)

区画整理面積が経年によりどのように増えていったのかが分かる資料を示してほしい。

(意見)

事業費の自然増分について、その内訳を説明してほしい。

【農道整備事業（上野2期地区）】（審議終了）

(質疑)

本事業の受益者となる農家の戸数は。

(回答)

約200戸である。

(質疑)

費用便益分析の便益項目で、営農に係る走行経費の増加要因は。

(回答)

農道整備により走行速度が上昇し、運搬や移動に要する時間が短縮されるなどの効果を算定するものであるが、算定に用いる労務単価の上昇により、労働時間短縮による効果が高まったため。さらに、事業期間に40年を足した期間の便益を算定しており、事業期間が延長となり、便益を算定する期間が伸びたため。

(質疑)

工法変更により事業費が減少した理由は。

(回答)

当初、橋梁を予定していたものの、現道を拡幅利用する路線に見直したため。

【林道整備事業（八木玉川線）】（審議終了）

(質疑)

工事遅延は前回評価（再評価）とは異なる理由によって生じたものか。

(回答)

前回評価では、計画路線内で用地承諾が得られなかったために路線変更が必要となり事業期間を延長したもの。今回評価（再々評価）では、路線変更の結果、軟弱地盤帯を通過せざるを得ない路線形となったため、対策工等による工事遅延を見込んでいるもの。

(質疑)

軟弱地盤への対策工が必要となった一方、事業費が変動しない理由は。

(回答)

軟弱地盤へは盛土による対策を講ずる計画だが、当初より当該区間は盛土を行う計画であったため、事業費の変動は生じない。なお、盛土の自重によりあらかじめ軟弱地盤を圧密させる工法を選択したため、施工に時間を要し、事業期間を見直すこととなった。

【林道整備事業（甫嶺線）】（審議終了）

(質疑)

人工巣を設置し猛禽類の誘導を図るとのことだが、成功した事例はあるか。

(回答)

国土交通省の事業の取組で、鳥類ペアの人工巣への誘導及び繁殖に成功したという事例を聞いている。

【林道整備事業（安孫・平糠線）】

(質疑)

国有林内の路線を県の事業で整備しているのか。

(回答)

国の事業を県が引き継ぐ形で整備を行っている。

(質疑)

当初計画 (H20) から前回再評価時 (H29)、今回再評価時 (R4) までに事業費が段階的に増額された要因は。

(回答)

前回再評価時は事業区域内で大規模な地すべりが発生したため、その対策による事業費の増額。今回再評価時は東日本大震災津波以降の資材単価や労務単価の高騰、消費税の増税による影響に加え、事業費のうち、諸経費が割り増しで積算されるため増額となったもの。

(意見)

総事業費が増額となった経緯とその内訳について再度説明すること。

(意見)

大雨災害時等の際に、安全な迂回路として利用できることが分かる資料を示すこと。

(意見)

国の事業をどのような経緯で県が引き継ぐことになったのか説明すること。

(意見)

事業着手時から今回再評価時までの木材生産便益の動向について説明すること。

【林道整備事業 (鈴峠 2 号線)】

(質疑)

全体計画延長の中に、既設区間があるのはなぜか。

(回答)

林道として機能を発揮する位置に起終点を設定し、その区間を計画区間としており、その中に既設道路があるということ。

(意見)

資材単価等の上昇により事業費が増加することが予想されるが、なぜ当初計画の事業費の範囲内で事業を実施できるのか説明してほしい。

(意見)

既設区間・実施済区間・計画区間それぞれが何 km あるか示すこと。

(意見)

事業着手時から今回再評価時までの木材生産便益の動向について説明すること。

【林道整備事業 (渋梨一ノ渡線)】

(質疑)

希少猛禽類の営巣木の特定時期は。また、営巣木への影響範囲とは具体的にどの程度の距離か。

(回答)

営巣木の特定時期は、いつ特定できるのか分からないため未定。また、営巣木への影響範囲は半径 500m である。

(質疑)

費用便益分析の木材生産便益について、前回再評価時に減少し、今回再評価時に増加しているのはなぜか。

(回答)

前回再評価時に便益が減少した要因は、利用区域が減少したことや伐採材積の増加よりも木材価格の下落によるマイナスの効果が大きかったもの。今回再評価時に便益が増加した要因は、伐採材積の増加によるもの。

(質疑)

木材生産便益を算出する際、標準伐期齢を考慮しているのか。

(回答)

標準伐期齢を考慮して算出している。

(意見)

利用区域が減少したというのはどういうことか説明すること。

(意見)

事業着手時から今回再評価時までの木材生産便益の動向について説明すること。

【地域連携道路整備事業（地域密着型）（小田中）】

(質疑)

事業地区内の大型車の交通量は。

(回答)

平成 27 年の交通量センサスによると 475 台／日である。

(質疑)

将来交通量が事業着手時より 500 台／日ほど多いがその要因をどのように考えているか。

(回答)

人口の増加によるものではなく、地域交通の流れに変化があったものとする。

(意見)

当初計画時と再評価時における将来交通量の算出根拠をそれぞれ説明すること。

【地域連携道路整備事業（地域密着型）（松林～坂本）】（審議終了）

(質疑)

計画延長が減少したが事業箇所それぞれで減少となったのか。

(回答)

地元住民との調整により、それぞれの事業箇所では計画延長が減少している。

ウ その他について

特になし

(2) 会議資料

資料 No. 1	令和 4 年度公共事業評価専門委員会開催スケジュール等（案）
資料 No. 2	諮問書の写し
資料 No. 3	令和 4 年度公共事業再評価地区位置図
資料 No. 4	令和 4 年度公共事業再評価調書
参考資料	詳細審議対象地区の選定について

※ 会議資料及び会議録については、行政情報センターへ配架するとともに、県のホームページに掲載します。

6 傍聴人数

一般 0 人 報道 3 社

7 問い合わせ先

〒020-8570 盛岡市内丸 10 番 1 号

岩手県政策企画部政策企画課 TEL：019-629-5181 FAX：019-629-6229

8 アドレス

<https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/hyouka/koukyouhyouka/1056510/1056516.html>

9 その他

政策等の評価について御意見がありましたら、上記問い合わせ先まで FAX 等でお寄せください。今後の専門委員会での審議の参考とさせていただきます。